

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス兵庫教室			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～	令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日のスケジュールが分かりやすく、子どもたちが安心して過ごすことができる。	ボードの活用や、個別の詳しいボードの活用をおこなっている。	・職員間の共有 ・楽しい雰囲気作りをおこなう。 ・児童が自主的におこなえるよう支援していく。
2	柳沢運動プログラムを用いた運動療育に力を入れ、毎日しっかりと運動遊びと静かな活動をおこなっている。	・インスタを活用し、他教室が運動療育に使用できそうな運動遊びの情報収集をおこない、実践している。 ・毎月ねらいを決め、偏らないような運動メニューを考えて一覧にし、取り組んでいる。	・どの職員でも運動療育に携わることができるように、ミーティング内でその日の運動遊びについて共有していく。
3	土曜日、祝日は外へ出て身体を動かしたり、楽しいと思えるようなイベントを積極的におこなったりしている。	・安全に配慮しながら楽しく身体を動かしている。 ・子どもたちからのリクエストにできるだけ応え、イベントの計画を立てている。	・感染症や安全に気をつけながら他教室間交流や、地域交流を意識していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動遊びの盛り上がりにより、ずれ込んでしまい、自主活動の時間が少なくなってしまうことがある。	・運動療育に携わる職員の時間配分。 ・支援が必要な児童への対応。 ・運動の面白さから、何度も繰り返し取り組んでいるため。	・主で運動療育にあたる職員は、タイマー等を使用して支援にあたる。 ・サポートをしっかりとつけたり、難易度を下げたりする。 ・盛り上がる内容を見据えて、サーキットをおこなう。
2	送迎などで日にちや時間によっては、ゆっくり子どもたちとかわることができない事もある。	・たくさんの学校へ迎えに行くため、下校時間がまばらで、出っぱりになる職員もいる。	・受け入れる学校の範囲を限定する。 ・遅い下校対応の送迎に出る職員を固定化せず、平等に事業所内で子どもたちとかわることができる時間を確保する。
3	身体障害児への支援が事業所内ではおこなえない。	・児童の怪我防止のため、つかまり立ちができるような手すりがなく、自身でつかまり立ちしたり、伝い歩きたりすることが難しい。	・体育館を利用する際には、歩行器を使用したり、手すり等を利用して歩行訓練をおこなっていく。